

KODAK COLOR CONTROL PATCHES

© The Tiffen Company, 2000

LICENSED PRODUCT

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

A

1

2

3

4

5

6

M

8

9

10

11

12

13

14

15

B

17

18

19



ル 4  
3528





東京案内



都乃名所をめぐりて

あつと鐘も多くと

見ゆがしるが

はるな

うらな

終て



去肆<sup>ふしや</sup> 常<sup>じょう</sup> ありま<sup>ありま</sup> あか<sup>あか</sup> ね<sup>ね</sup> せ<sup>せ</sup> たり<sup>たり</sup>  
 り<sup>り</sup> け<sup>け</sup> ね<sup>ね</sup> 勝<sup>かつ</sup> 花<sup>はな</sup> ら<sup>ら</sup> あ<sup>あ</sup> ね<sup>ね</sup> の<sup>の</sup> こ  
 ろ<sup>ろ</sup> を<sup>を</sup> へ<sup>へ</sup> る<sup>る</sup> ぐ<sup>ぐ</sup> ろ<sup>ろ</sup> 成<sup>なり</sup> 入<sup>いり</sup> 来<sup>き</sup> け<sup>け</sup> 便<sup>べん</sup> あり<sup>あり</sup>  
 くら<sup>くら</sup> 掃<sup>はら</sup> ぐ<sup>ぐ</sup> と<sup>と</sup> 渡<sup>わた</sup> る<sup>る</sup> ろ<sup>ろ</sup> へ<sup>へ</sup> 入<sup>いり</sup> ま<sup>ま</sup> せ<sup>せ</sup> と  
 白<sup>しろ</sup> せ<sup>せ</sup> と

编者 東 籬 亭 兼 人 白

京素内なる名所

東の方

右方間の里敷  
左方大橋の里敷

昭和十六年一月十一日  
尾野貴英氏贈

三條大橋	三丁	矢田寺	三丁	天性寺	四丁
奉徳寺	五丁	妙満寺	六丁	専修講場	六丁
華堂	九丁	下御霊	六丁		
内裡	三丁	相国寺	九丁	上御霊	九丁
天寧寺	九丁	西園寺	四丁	河津寺	四丁
十念寺	四丁	佛隆寺	三丁	本満寺	三丁
下鴨	二丁	千葉寺	三丁	百万遍	六丁

京素内なる名所



吉田	十丁八丁	其如寺	九二丁	黒谷	十九丁
藤ヶ谷	九丁	浪岡寺	六二丁	光寺	三三丁
美子	三三丁	永親寺	七一丁	南郷寺	六四丁
極	六一丁	栗田	五二丁	如慈院	五丁
紙	六二丁	圓山	十丁	長栄寺	十丁
東大谷	十丁	雙林寺	十三丁	安井	八丁
高巻	四二丁	八坂	十五丁	壺山	十五丁
子	八丁	清水	八丁	清栄寺	九二丁
平来	十丁	西大谷	八丁	小松	三二丁

大佛	十五丁	三十三	十六丁	智積院	十八丁
六波羅	十丁	六	十一丁	建仁寺	六丁
大寺院	五丁	金蓮寺	五丁	綿天林	一丁
香福寺	三丁	和泉式部	二丁	慧教寺	二丁

南西の方 身二日也

大橋	九丁	六角寺	六丁	佛光寺	三三丁
因幡	十四丁	新	十五丁	東	九丁
西	六丁	真正寺	七丁	本國	八丁



千生寺 <small>九四三丁</small>	修原 <small>三三丁</small>	大通寺 <small>三三丁</small>
東寺 <small>三三丁</small>	口ヶ塚 <small>五十一丁</small>	桂川 <small>三三丁</small>
向日明林 <small>三十八丁</small>	長峯林 <small>三三丁</small>	光明寺 <small>三三丁</small>
小堤山 <small>三十八丁</small>	善峰寺 <small>四丁</small>	三法寺 <small>三三丁</small>
西岩倉 <small>三三丁</small>	花の寺 <small>三三丁</small>	久野寺 <small>三三丁</small>
津波寺 <small>三三丁</small>	夜更山 <small>三三丁</small>	西芳寺 <small>三三丁</small>
雲尾 <small>三三丁</small>	梅の宮 <small>三三丁</small>	

西の方 廿二日

大橋 <small>三三丁</small>	左 <small>三三丁</small>	法輪寺 <small>三三丁</small>
嵐山 <small>三三丁</small>	大懸谷 <small>三三丁</small>	悠川寺 <small>三三丁</small>
天統寺 <small>三三丁</small>	那く官 <small>三三丁</small>	二寺院 <small>三三丁</small>
紙王寺 <small>三三丁</small>	会仲寺 <small>三三丁</small>	一名井 <small>三三丁</small>
清游 <small>三三丁</small>	中岩山 <small>三三丁</small>	月輪寺 <small>三三丁</small>
清涼寺 <small>三三丁</small>	廣沃 <small>三三丁</small>	鳴瀬 <small>三三丁</small>
泉谷 <small>三三丁</small>	中合寺 <small>三三丁</small>	了徳寺 <small>三三丁</small>
柳宝 <small>三三丁</small>	妙心寺 <small>三三丁</small>	純安寺 <small>三三丁</small>
多持院 <small>三三丁</small>	今安寺 <small>三三丁</small>	平野 <small>三三丁</small>



北野 北丁 神泉苑 十丁

北の方 廿四日め

大橋 <small>九丁</small>	一系屋橋 <small>十丁</small>	水天孫 <small>三丁</small>
皇林院 <small>三丁</small>	大徳寺 <small>八丁</small>	今宮 <small>二十丁</small>
上賀茂 <small>三丁</small>	市 <small>十三丁</small>	二ノ瀬 <small>九丁</small>
美布祢 <small>十四丁</small>	鞍馬 <small>八丁</small>	岩倉 <small>三十丁</small>
西宮 <small>三丁</small>	雲ヶ崎 <small>八丁</small>	山端 <small>十五丁</small>
赤山 <small>十三丁</small>	竹仙寺 <small>八丁</small>	雪後院 <small>十二丁</small>

法林寺 一丁 瑞泉寺 半丁

東北の方 廿六日め

大橋 <small>九丁</small>	白川橋 <small>五丁</small>	蹴上 <small>八丁</small>
日の出 <small>六丁</small>	山田寺 <small>六丁</small>	高銀高 <small>二丁</small>
三井寺 <small>四丁</small>	唐崎 <small>九丁</small>	坂本社 <small>四丁</small>
白毫院 <small>半丁</small>	山王 <small>八丁</small>	花掛社 <small>五丁</small>
延暦寺 <small>十丁</small>	横川 <small>三丁</small>	極楽寺 <small>三丁</small>
大東 <small>三丁</small>	大東 <small>三丁</small>	極楽院 <small>八丁</small>

大東

品



物林寺 北九丁 寂光院 一丁半 古知谷 西丁

東南の方 第六目め

大橋 十一丁 少教寺 三十一丁 今無地 三十一丁  
泉涌寺 二丁 東福寺 八丁 稲 十一丁  
扇森 一丁半 下碓礪 四丁 一々 三十一丁  
上碓礪 一丁半 三宮寺 十五丁 美禰山 五丁  
西方寺 一丁半 常光寺 三丁 龍泉院 三丁  
興隆寺 三丁 真心院 九丁 平等院 一丁

京都町名

堅名

遠江寺町 口東方上の繩子通 川端 下八丁  
本座町 川原町 中 寺町 通  
山幸町 数屋町 富小路 柳子場 場町  
高倉 間之町 好し路のそと 東洞院  
車巻町 好し路のそと 島丸 友智町 三丁  
宝町 衣之店 三丁 新町



谷丸 三條 西洞院 小川 精菜脚通

陣小路 碓井 伊東通 堀川 東河

岩上 山池通より下モ丸右所より上の庭や西と云 徳徳 岩門 下と上

大宮 松屋町 丸右町より 日堂 口上

新真流 口上 浄福寺 口上 千本通 七本堂

日横名

鞍馬口 寺之内 上立賣 小辻

次子町 今出川 久持野 赤者小路

一 條 中立賣 上長者町 中長者町

下長者町 出 水 下立賣 橋本町

元正親王の橋本町と丸右町と丸右より丸右 竹屋町 夷川

二 條 押小路 山池通 姉小路

三 條 六角 蛸菜町 綿小路

四 條 後小路 弘光寺 高辻 口上



松原	万葉	又	兼	香
鎌	的	場	魚	名
花	上	珠	中	珠
小	七	糸	下	魚
梅	八	糸	針	山
度	九	糸	通	

此川東流門を介する小流點々として通る也  
 あらゆる川を思ふ

京素内なる事

并一目目 三條大橋より

内裡 漸染北南北八町東の六町は方九条と

禁裏御所 南北九十八町東の百廿二町余

東の御門と日御門とと南と南門とと公卿門とと

北の御門と日御門とと西の御門とと

紫宸殿の西の小室ありありと西の御門とと

いふ東の御門と日御門とと西の御門とと

常小室なる事ありありと西の御門とと



京案内及外



三ツ山

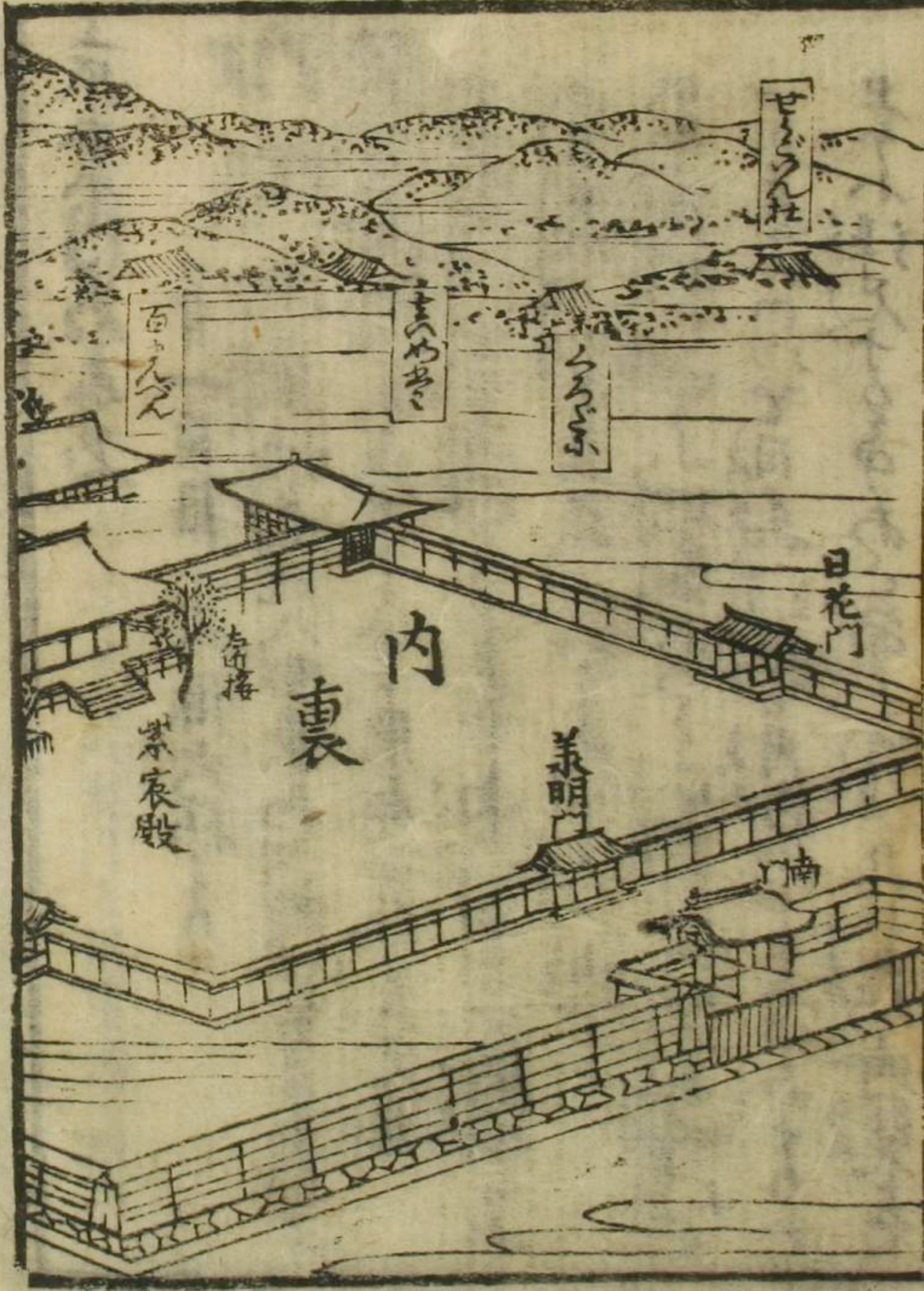
土山

とがも

月花門

右橋

京案内及外



三ツ山

土山

とがも

内裏

日花門

義明門

南門

紫宸殿

右橋



東家敏 おも藤永三月百瀬結 七月十日すまひ  
おとろ 藤分の日 内侍所 藤永 藤永 藤永 藤永  
藤永 藤永 藤永 藤永

大宮御所 女御所  
親王家 御掾家 公卿家

文田寺 寺町三集とん丁

天竺寺 日所 津ち宗かき 心経 心経 心経 心経  
中野 藤永の係にゆり

本社寺 日所 藤永 藤永 藤永 藤永

妙満寺 日二集 宗を相付し人 心経 三年 月 建立

藤永 藤永 藤永 藤永 藤永 藤永 藤永 藤永

草堂 日所 藤永 藤永 藤永 藤永 藤永 藤永

下御 藤永 藤永 藤永 藤永 藤永 藤永 藤永 藤永

藤永 藤永 藤永 藤永 藤永 藤永 藤永 藤永

三



▲後より増所内門内丁内裡に在りて今至河  
ゆりてゆくや三丁

相法寺ちほうじ 入山の事とて中書省著意國所  
後小松院こまつゐん 享徳三年足利義満公建立あり

▲後より赤坂下あかざか 今出川へ戻りてまき  
又丁の内出町へゆきありて今出川へ出りてまきとて  
まきわらへんねまきとてあまのりかき丸通へ出  
るることとて今出川へゆきありてまきとて

上御かみご 足利八郎兼光在院中書省著意三年に在り

▲後より赤坂下あかざか 今出川へ戻りてまき  
ゆきありてまきとてあまのりかき丸通へ出  
るることとて今出川へゆきありてまきとて

○ち何とありけり

天長寺てんじょうじ 曹洞宗 宗室を伴ふ和者  
ありてあり 浄土宗 宗室を伴ふ和者あり

長祿寺ちやうりやくじ 浄土宗 宗室を伴ふ和者あり  
ありてあり 浄土宗 宗室を伴ふ和者あり

久の建ちてありてありてありてありてあり

京東内記



阿蘇山 淨土宗 弁春 弁春とは人を知るに好む  
弘法大師の作。織田信長に任ぜられた信長の子孫の遺像を安んず  
。日蓮の遺像を弁春の遺像とあり  
十念の口 浄土宗の弁春の遺像を安んず

人の子 人の子とは  
△はまもとにありて今も川と川あり

下鴨羽神 社名 天武天皇白鳳元年の遺愛  
として西の山神なり神の口は月中の西の山神  
帝よりありて 勅使以下友士の面を  
らをかきてを以て 勅使以下友士の面を  
川あり浄土宗の遺像を安んず  
て浄土を

浄土宗の遺像を安んず

五



東京府内務局

吉田殿 吉田 謙吉 神祇官の御用として 徳國の林社社

と司するもの 山本

吉田社 社名 日帝國中の信託をつとめしむる

。いふとより 田山とて 秋の頃の系助のまはれを

▲いふのすをを 越く 田山とて ありる 東山院

極まる まじり 主務をなす

黒谷 黒谷 幸次郎 法和天皇の御宇 意大脚并奉

法社と人軍奉。之ま久き。之ゆえありの

麻谷万世 ちん 法社院と号す 後上人軍奉

。奥小松を 嶽あり 嶽のまはれ 谷と 法合

後 法社院が 別荘として 平家と 亡す 後人

根岡寺 ちん 將軍 東山院 皇朝 義政の宅

の 法より 峰 峯なる あり 二重の 扉 あり 東山院

として 義政の 宅 あり 義政の 宅 あり

光寺 ちん 東福門院より 出 遣 あり

法社 なる 法社 なる あり あり

法社 なる 法社 なる あり あり

天正



京野内石巻

永規寺

ちんぎんじ

浄土宗本寺の御願所

又より

法和天皇の御願所

南禅寺

徳源軒千石 又山のよき懸山は白の白屋

と開山文明國師ふりしるす 寺曰く今純徳といふ

とて寺の御願所

親皇上人極秘の御願 花頂山中寺と号す上人の

御願所

喜達院宮様

親之御門跡

知恩院宮様

知恩院 ちんぎんじ 浄土宗本寺の御願所

宗門御願の御願所 花頂山中寺と号す上人の

上京大所の御願所あり。一公院御願所

紙園社 ちんぎんじ 貞規十一年揚子屋の牛乳

天とて御願所 ちんぎんじ 中央の素直御願所

西の橋田那と号す御願所 ちんぎんじ 御願所の御願所

と号す御願所 ちんぎんじ 御願所の御願所

二軒茶屋 ちんぎんじ 下門原 名をいふ 料理を多し

圓山 ちんぎんじ 御願所 正徳原 世に伝説あり



長安寺の境内にありて、此の佳境に日く捨金を積

てお供あり。南二丁

長安寺 古刹八木 本寺十一面觀音修驗大師の御宇

奉修所の爪系賑ひおんく地多し。あり

東大谷 親善上人の御宇に之縁年中、再興お

つゝ、お供お莊嚴多うなり。二丁り。東原に振る

雙林寺 古刹廿五の園の上人軍奉うくとお寺の東原

お寺の修驗大師の作也。西の菴。五色堂

屋敷入りの塔あり。三丁り

安井御門跡 少のれ二百石

安井吉世の 長安二年大谷は作りのをよと崇徳

帝此の像と感得し考後と建立し。二丁り

多層寺 古刹廿五の軍山三河和者 大谷の御所内

建立は殿の本寺の御所は迦系御難と安井寺の

奉の御所は御所。その御所は秋のつらひを御所奉

してお供あり。三丁り

八坂の塔 修驗寺あり 延暦元年と云ふ子のを刻く

修驗の御所は御所。その御所は秋のつらひを御所奉



ある本寺大日親迦阿阿宏務いけい塚を...

と降義ま新いのり並せーと入。三丁りて

長山正法寺 ちれれま中 修善大洲の家春中寺の

親迦仏らごきの中き入 遺件と終す山とり

志津文の社ありき山とて終業の地なり坊舎

北集ましくけいと終業の尾山と号す夜の具終業

はす 二丁りて

子妻親高 光明寺居山猿谷の内と天思志津

持つて入一寸分の親高を塚中と安す 依人安ん

青羽山清水 百五十五 西土土の北を寺十二面

親善大日二年田村を居建立。真院。地を植現。河

ごき寺。親迦寺。田村寺。坊舎寺。三年後

○青羽山清水がわく又もまき 櫻枝樹ありて強

ありてまきまき。一丁り

清閑寺 寺の中山と入安永二年寺の代建立

▲清閑寺南二丁小町 寺の代建 又七丁の

花山正法寺 修善大洲の古終業 坊舎寺 ちれれとあり

とまきと日るふと事終す入。えの清也を居り



舟木のも 日親上人の墓所 けしと多岐山

志の方を本願寺口傍の墓所と一丁

西大谷 親善上人の墓所

表つとわく志の方の墓所あり

小松 善宮八幡 又西面、古寺あり

耳塚 古谷新祥とひいりてそ級のありふ耳

とそとそとそとそと埋るるあり

大佛殿 方廣寺 信陽成院 天正十六年 大谷

秀吉公建す 一人再興の美観とても千六百

本寺 釈迦如来 像 名并九尺五寸 天正十六年 七人

堂の南に早又方 妙天寺 板敷九千餘坪 坊三

介面の石 恒長と云はるる 大石 妙天寺 坊三

百二十万 石あり 殊日本 善徳の大堂なり 坊三

三十一 寛政十年 七月 二十日 火のあふ焼亡す

三十二 同寺 妙天寺 後白河法皇の御所とて千餘

親善と安徳と本寺の子 親善寺の坊六十五

三十三 同寺 妙天寺 又教坊あり。鐘樓 坊三

新田右。古江源院。妙天



妙法院宮様 西多利千石世々余

智積院 西多利千石世々余

不知明 西多利千石世々余

六波羅宮寺 西多利千石世々余

西多利千石世々余

西多利千石世々余

西多利千石世々余

西多利千石世々余

西多利千石世々余

建仁寺 西多利千石世々余

西多利千石世々余

西多利千石世々余

西多利千石世々余

西多利千石世々余

西多利千石世々余

西多利千石世々余

西多利千石世々余

西多利千石世々余

西多利千石世々余

西多利千石世々余

西多利千石世々余

西多利千石世々余

西多利千石世々余

西多利千石世々余

西多利千石世々余



とく炭新とあふる川よふ新とつとつと  
とつとあふる川よふ新とつとつと  
とつとあふる川よふ新とつとつと

大聖院 ち町口東下ル 本寺の御縁仲直ん傳作

金蓮寺 口東下ル 時宗本寺の御縁仲直ん傳作

降の上人 親慈地蔵の御縁 徳母社。杜橋松

の弘法大師の作 深成皇居の建立の御縁仲直ん傳作

綿天満宮 寺町綿山 ねあつと天満宮を御縁仲直ん傳作

時宗の御縁仲直ん傳作 河原院六條乃坊と縁を御縁仲直ん傳作

園後寺 ち町十公 時宗一本も本寺の御縁仲直ん傳作

時宗の御縁仲直ん傳作 徳母社

時宗の御縁仲直ん傳作 徳母社

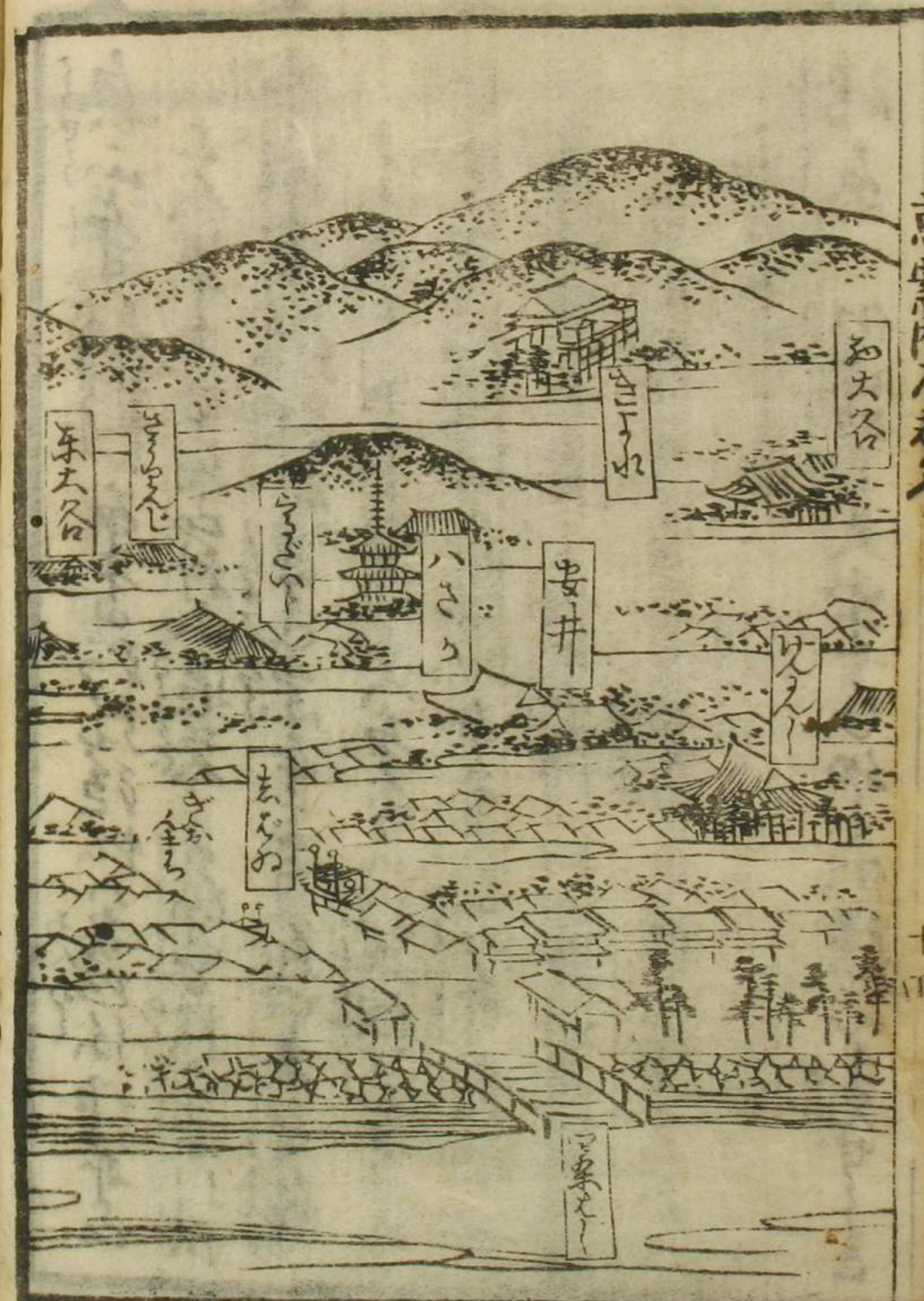












京案内及外

十四







善光寺 小坂の 本尊千手観音弘仁法師作

。二重塔 宗基源兼上人二十丁

三井寺 宗会の 本尊仏眼曼陀羅法師の

寺旧本堂之の曼陀羅は經年津久比に遷す

宗会 今地 本尊十一面観音向日明師の作

宗基の隆安法師・廿丁

花の寺 物持寺 本尊木彫り阿弥陀大師作

本堂観音小舟名風等。ありとあり。日蓮宗

境内揚子花の以の教人群衆と。むすます丁

。けふより千里のすがたをわたりとらふ

旅者あり

久圓寺 桂の里 西本願寺の畫ありり西山坊より

宗基の上人。ケキくの面ありのありとあり

善光寺 宗会 本尊阿弥陀観音 天竺師

法牛和尙再建。山とありあり

夜更山 のり山 傳宗 本尊地藏菩薩并山宗法師

此地の夜更山大信衆良公の回縁に細川頼之建立

西本願寺 のり 本尊阿弥陀観音 天竺師







法輪寺 ちんれん 寺なる唐堂花乃島は作相如の

申初乃昌昇表のと年三月十三日午ありとて十三

才の男女群あする年減小野くは日根尾社に申ふ

あり

嵐山 あらしやま 橋の右新花の以林森の桂川あり花足の巻

御言あ後くく群集の美藤野ひは

法月橋 ほつげつ 寺移り桂川からなるあり

千名う剛 せんな 横笛が鳴死せり古徳之

大照台 たいしやうだい 法月橋より七丁り 寺なる鏡を言古心のは

法印寺 ほふしん 鏡十刺のうりやき 縁初仲く是利也

あまの建ま長意國所并まき

天經寺 てんけい ちんりき 山の寺とて昇表をい表をい所能

野々文 ののふみ 桓武天皇延暦廿二年知信信勢を并

このいり一舞又かちらる内親をまてりこのいり

まうあさりし・二丁り

二名院 ふたな 石十五 寺なる釈迦の縁路の二名あり

念仏寺 ねんぶつ 法地と人のなる像と婁重と。すてけ

山と飛山とらそから表ふ知らるる。町あひ

法印寺

一〇







のちまゝおまけに又三人計より天の玉座を窺ふ作口年  
ふさう せんごう 雲霞のそと後之。百方の塚。門のこゝを後あり

大覚寺門後 たるより十丁

廣沢地 多由し三丁

了海と人の塚。常水池 九丁

明麗妙光寺 本寺新迦佛界まゝは地國所

のちまゝよりこゝを後之 百丁・三丁

白乳谷法蔵寺 本寺の西に陸地あり其處を後地の作

并ま会百拙和當・三丁

平人寺 妙光寺の吉内寺内は方相寺令之。此寺

了徳寺 是れ也人の御所 此より十丁

御室御所 此より十丁

御寺内 楊多し法中池も楊の寺とくろふ

花時 此のまゝ妙祥寺あり。六丁

妙心寺 八十八余 縁家又山の弁大徳寺あり

大寺と寺并心笑山本所本寺新加佛苑

西邊支・四丁

龍安寺 九丁 并ま会長天和尚文明年中細川



大系土主精元建立。寺内の池ふらるるあり。寺持院。是利寺氏のちり延文の中。源義経公建立。是利十三代の本係あり。美濃國

全園寺 寺の 縁ありて。府苑寺と号す。是の

平野社 社 桓武天皇の御代。幸て

紙屋川 川 弟屋あり。セナリ

北野天満宮 社 天徳三年大内卿補。遠

○此の地をいふ社あり。大日尊。本向致言  
△さうり千手通へ下りせり

二標御城

神代池 池 桓武天皇の御代

○さうり千手通へ下りせり



乃法元十聖あごごのく下こ階入物々々

▲こうしと 雄山ちねの山 光仁帝みくにの 法皇きんぎょ 建立たてまつ 御所の

▲しゅうの 梅尾うめのお 奉言ほうげん 釈迦しやくぢや 冥明めいめい 再興さいきやう

▲けいご 桂尾けいご 云い 十じゅう 石いし けり

けにす西けつつきるは大橋おほはし ちりせりしり  
さう釈迦しやくぢや 冥明めいめい 再興さいきやう  
こころ経けい けり

乃身日目め

▲いん 三事通さんじつう とあ 堀川ほりがわ 出まこととくや

丁目一葉通ちやうめくわつたう

▲しやう 一葉度揚いっぺつたう 杉光すぎのひかり のは天あま 之の 後のち 丑うし のの 綱つな 鬼おに 寺てら 達たつ

あまのりつとく・十丁

▲すい 水火天林すいふくあまのりん 天満あまみち 天林あまのりん 宮みや 三丁

▲しん 香林院かうりんいん 志し 十じゅう 瀧たき 和帝わてい のの 離り 宮みや 乃の 天あま 替かへ の

あまのりつとく・三丁

▲だい 大徳寺だいとくじ 乃の 十じゅう 乃の 礎いし 天あま 乃の 勅しやく 乃の 乃の 大だい

乃身日目め

此三



此寺所の并臺に宇二院の坊中あり一休和也  
居候せしを云く・早り

今宮社社外一修院中宇二層年二月并臺

此の社よりと云傳二年は計りしつと

と賀茂明神社外二年中社分宮を社外と

城の社よりと明神出現の化より押けし社ら

高宮の一宮とて平安城とてさうらうらう

有し社よりと化候ふ山あり川ありとこの社

うらうら川のがさうらうらうと美づらとて

地より候きまらる人いまら下とのひさし

あつて・二十丁

市原小町の田十三丁

二ツ瀬村らとて炭とてさうら・二十丁

又布根社外高社有原作人建立るとていり

まことるを止むわらひの男女のりせのなとてりあり

おの社より奥の社まで六町との社との流・十四丁

鞍馬寺二十丁有本寺の思河門天延暦十八年丁未

別法と人并臺を。坂下とてりいり



位せしことし東光坊の旧宅あり奉書ふ武經の境  
弁堂のちかたごととあり。信ふが谷深うつろ  
細柳の煉の香なりとて忠るふ切割るごとと  
ありありとて俗ふ天竺の位西よりくまのあり  
ありあり

。まより九丁鞍馬の氏を好むありりとい  
奉のさなり山名をえりば鎌倉村といふい  
おより三丁りい

忠念大寺寺 奉書るを教を善く其作善作

信山并奉・三丁

実相院六丁徳

御書多池のむね地蔵ありあり西光法作が遠く

六地蔵堂のむねあり

松を傍奉納あり 日蓮宗日蓮上人并奉

毎年七月十六日老若たいりく彌あり。けり

み妙法のごまのまよりありあり八丁

山名 奉書あり麦飯のむねあり。川ありりりりり

赤山社 奉書大伴屋土より御納のむねあり



約小知清せり本化地所るの意その作し三丁

林立寺官様

文政七年造り

侍従等 石川丈山の山荘に後尾の詩人三十一人

と撰出す更ハ将野者作。名実あり。名実あり

の山水とてまぢ雅し今も其樂宗の足傍ると

なり其結るを近の文雅の事其流と云

聖徳院官様

供養の源也 然其三社と知信と智徳大辨

并委 十一丁

。いふと其あぢが七川の東岸のり

らとありり二系新地其西町らうが

南のりが三條大橋ひがづめこ

法林寺

壇上院 并山城申上人の恵和者の

目録。寺内亦至夜社とり入具伝あり

瑞泉寺

浄土宗并委 至寂和尚存歟也

其後関白秀次公の母瑞龍院殿秀次公生母



のら<sup>つふく</sup>遊<sup>あそ</sup>戯<sup>び</sup>のら<sup>あ</sup>ふ<sup>た</sup>建<sup>た</sup>が<sup>ら</sup>わ<sup>ら</sup>む<sup>を</sup>本<sup>ま</sup>なる<sup>り</sup>阿<sup>あ</sup>波<sup>は</sup>准<sup>じゆん</sup>  
ゆきとく  
 公<sup>こう</sup>女<sup>にょ</sup>徳<sup>とく</sup>太子<sup>たいし</sup>の<sup>の</sup>御<sup>ご</sup>作<sup>さく</sup>。秀<sup>しゆ</sup>次<sup>じ</sup>公<sup>こう</sup>が<sup>が</sup>二十<sup>にじゅう</sup>人<sup>にん</sup>余<sup>あまり</sup>人の<sup>の</sup>  
こつげ  
 毒<sup>どく</sup>婦<sup>ふ</sup>の<sup>の</sup>名<sup>な</sup>増<sup>ぞう</sup>あり。倍<sup>ばい</sup>ら<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>む

け<sup>け</sup>乃<sup>の</sup>法<sup>はふ</sup>元<sup>げん</sup>九<sup>く</sup>里<sup>り</sup>余<sup>あまり</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>

山<sup>さん</sup>坂<sup>ばん</sup>難<sup>なん</sup>な<sup>な</sup>多<sup>た</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>て<sup>て</sup>が<sup>が</sup>船<sup>せん</sup>り<sup>り</sup>く<sup>く</sup>出<sup>で</sup>て  
 名<sup>な</sup>を<sup>を</sup>り<sup>り</sup>そ<sup>そ</sup>く<sup>く</sup>ぶ<sup>ぶ</sup>く

第<sup>だい</sup>八<sup>はち</sup>日<sup>にち</sup>目<sup>め</sup>

▲三<sup>さん</sup>家<sup>け</sup>大<sup>だい</sup>橋<sup>きう</sup>より<sup>より</sup>は<sup>は</sup>教<sup>きやう</sup>山<sup>さん</sup>以<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>乃<sup>の</sup>あり<sup>あり</sup>屋<sup>やく</sup>橋<sup>きう</sup>  
のち  
 二<sup>に</sup>弁<sup>べん</sup>をも<sup>も</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>さ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>人<sup>にん</sup>は<sup>は</sup>白<sup>はく</sup>川<sup>せん</sup>城<sup>じやう</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>を<sup>を</sup>り<sup>り</sup>て

▲白<sup>はく</sup>川<sup>せん</sup>城<sup>じやう</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>か<sup>か</sup>も<sup>も</sup>川<sup>せん</sup>橋<sup>きう</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>今<sup>いま</sup>出<sup>で</sup>川<sup>せん</sup>

通<sup>とほ</sup>り<sup>り</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>白<sup>はく</sup>川<sup>せん</sup>村<sup>むら</sup> 白川村

と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>山<sup>さん</sup>中<sup>ちゆう</sup>城<sup>じやう</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>坂<sup>ばん</sup>本<sup>ほん</sup>一<sup>いち</sup>箇<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>む

と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>小<sup>せう</sup>志<sup>し</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>屋<sup>やく</sup>と<sup>と</sup>き<sup>き</sup>二<sup>に</sup>弁<sup>べん</sup>をも<sup>も</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>て

と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>大<sup>だい</sup>橋<sup>きう</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>

白<sup>はく</sup>川<sup>せん</sup>橋<sup>きう</sup> 志<sup>し</sup>屋<sup>やく</sup>の<sup>の</sup>山<sup>さん</sup>城<sup>じやう</sup>より<sup>より</sup>物<sup>もの</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>十<sup>じゅう</sup>五<sup>ご</sup>の<sup>の</sup>橋<sup>きう</sup>川<sup>せん</sup>に<sup>に</sup>橋<sup>きう</sup>を<sup>を</sup>り<sup>り</sup>て



蹴上 白川橋かけ男、粟田天皇。神明山

。大目きありて、八町  
日の園作 木食と人の草庵あり

。安より千六丁ごうて、こまこと、つるまき、まき、ごら大  
津御座たの方、おそを、小笑、越とらるるに

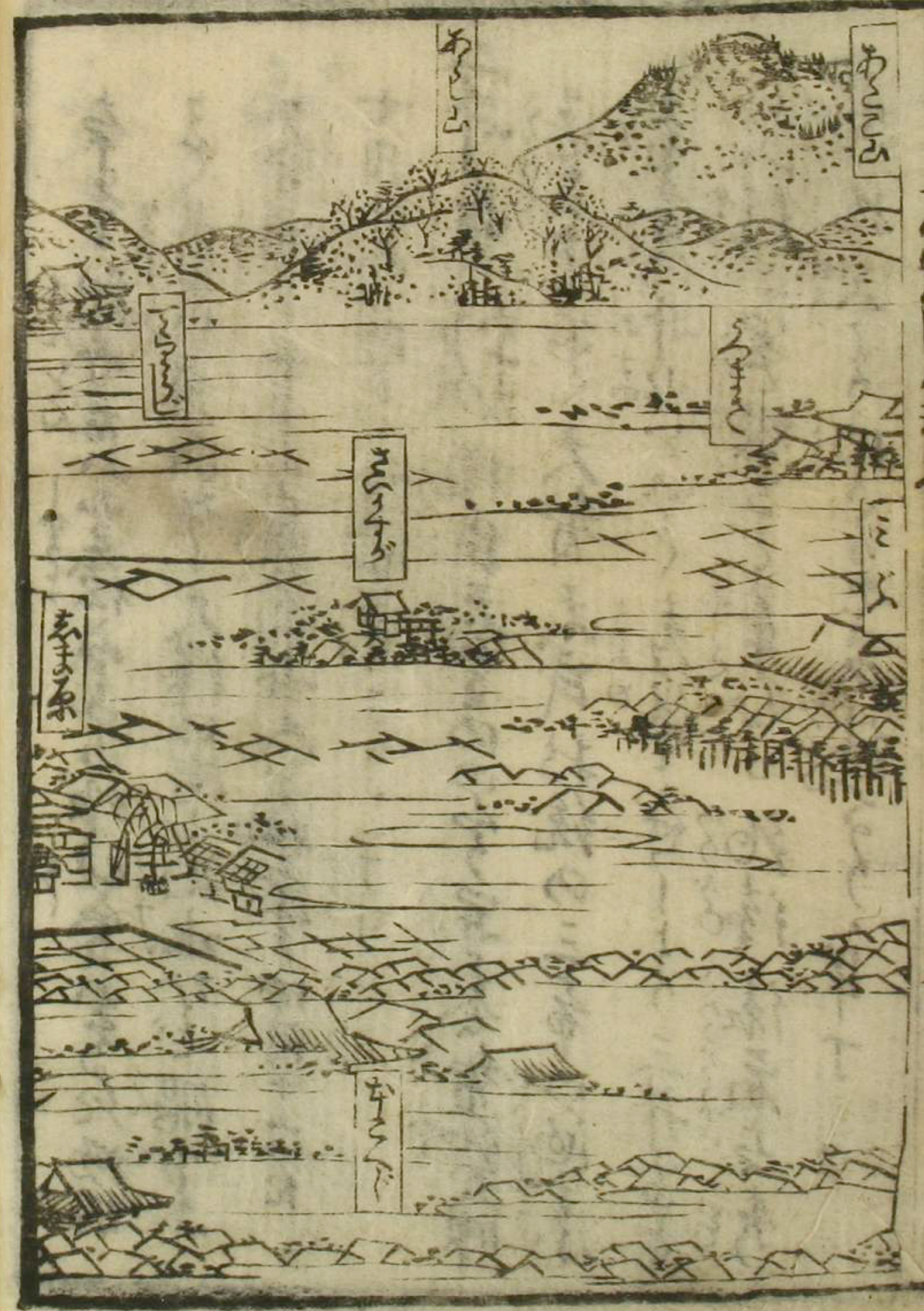
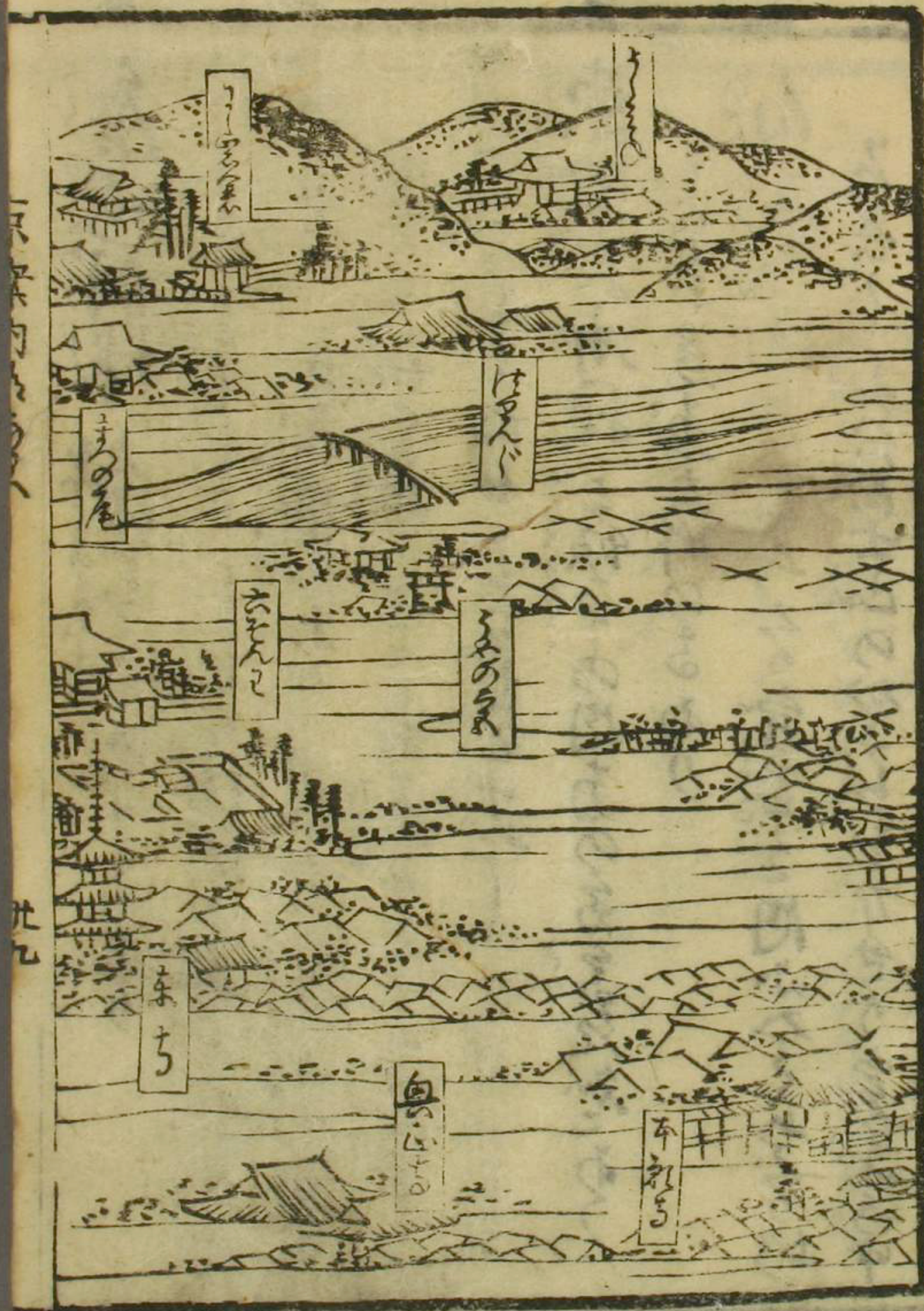
山田寺 本寺、お強陸二十又の弁とる、向ふ殿付

三井寺 親者、おひが、大津の町、湖水を、眼、下、お  
んる、但し、おより、奥、お女人と、移、す、四月、十一、日

七月、十一、日の、こと、多、後、と、ゆ、る、一、丁、り  
三井寺 極武、天皇、の、お、今、弁、委、智、徳、大、昨

遠、立、する、お、大、智、大、武、持、統、の、二、帝、の、池、生、ふ  
素、吉、の、弁、水、を、ひ、く、ま、屋、湯、と、せ、し、より、三、井、寺、と  
い、は、ら、小、室、城、と、草、む、の、池、津、儀、座、を、奉、り  
御、給、え、より、ゆ、る、お、の、鐘、より、一、年、丁





山崎内入

山崎内入

山崎

山崎



唐崎明神 大伴のあまをいふるといふ

一ツ松ノ木なりこまじり坂本まで廿六丁

坂本 善住施岩ありこの道より比叡山とのわり

くまふ一切舎をけりうねる屋なりあまださう

つらまど坂本そと用をすべし

東照宮沖社と坂本の内南のあまをいふ

白鳥院のあまをいふ

る長く六箇止山のかしらとせりあまをいふ

小院をいふ人の礼儀と坂本あまをいふ人の

あまをいふつとせりといふ

山と禮院。二十一社 山上まで五十七

八丁子社の山と八丁目ありこまじり坂本より十一丁あり

花はくのみを 傳教大師のあまをいふ

八丁子の女とあまをいふ

比叡山延暦寺 日本武臣のつとせり

鬼つち後の具山より桓武天皇を延暦七年延教

大伴のあまをいふ 山より 三十六丁



○ 根中寺 末叶也其始義大州也

○ 戒壇寺 三寺と申すと 嵯峨天皇弘和十四年

○ 義大州 入京して其其の山の中と云ふ人其壇を撰

○ 文殊寺 文殊弁と安と

○ 大講寺 大日梵天帝釈文殊と安と 源州

○ 天竺の西院

○ 赤尾院 義大州の所也

○ 千子院 千子院也

○ 山王院 山王の所なりふけを小新向しつて下

○ 赤尾水 西院小住り赤尾水毎日赤尾のふひ

○ 浄土院 浄土院也其始大州也

○ 浄土院 浄土院也其始大州也

○ 法苑寺 本寺も善賢寺

○ 常行寺 阿彌陀佛

○ 釈迦寺 本寺も釈迦文殊曰天と兼和元年

○ 釈迦寺 延喜寺代造と云と

○ 相輪塔 皇徳のころころの所とて鬼門相輪と云



元黒谷 本寺は文殊十一面観音淨名居士と云す

法住上人は正しく伝ふひつと云

△後方東門坂と云ふは東へ三里

ハ概くすくは十八丁

横川中寺 本寺を親善寺と云ふ大所也

○大所也 元三大師山雲の根柢也云

△後方ハ概く廿丁 山雲も廿丁

大黒里 此里小宮庭あり。背く入るハ一丁

大原里 名もあまも炭野と云ふ

不動寺 不動尊 具臨しててありと云ふ

建立

大系院 親善上人住持して云

弁天 竹里嶋より親善ある親善上人法を弘

めん集をいのり云 かくも中時あり

弁天 此の木の旁谷川の所ありと云ふ

似たり



白川村 白川と切出た水を通す

△ 白川より鴨川へ通す水

横川より矢野へ通す水

横川より矢野へ通す水

常盤院 寺あり

極楽院 寺あり

安楽庵の庵

賣茶の庵

徳林寺 寺あり

二年法統上人は向の寺あり

上人とてしるす

寂光院 寺あり

系法大師冥会建徳門院

お知谷の寺あり

の寺あり

水あり



▲横川よろがわ八や瀬せ大系とんぐとめくろく系けいゆり

山やま原はらとら法ほふ凡ふ十里じゆ余よ

寺てらと白川しろがわゆり

凡ふ十里じゆ余よ

古ふる知ち谷やとらとら

凡ふ十里じゆ余よ

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

第六日め

▲寺町通り十丁りしやうぢやうぢり西条大橋さいじやうだいしやう西條さいじやう

ち町ちやうぢやうとすことすこち町ちやうぢやう

漸しぜん親しん考こう ちやうぢやう あきぎ ちやうぢやう あきぎ ちやうぢやう あきぎ

西條大橋さいじやうだいしやう ちやうぢやう あきぎ ちやうぢやう あきぎ ちやうぢやう あきぎ

りり大だい弘こう西さい面めん身み塚づか出でるる大だい弘こう石いし段だんのの海うみととをを了り

りりととあありり又またあありり三さん丁ぢやう

今いま慈じ時じ控くわう現げん 白川しろがわ江え皇みかど漸しぜん親しん考こう ちやうぢやう あきぎ

今いま慈じ時じ親しん考こう 西國さいこく十じゆ五ご番ばん九く百ひやく弘こう法ほふ大だい作さく也や親しん



世をたもて 是より也

泉涌寺

高僧

寺

延初叙也

河内

金剛殿

佛

舍利

新

入

満

と

入

の

分

金

利

を

ぬ

く

う

り

入

。文

徳

天子

儀

沖

代

高

寺

沖

。こ

ら

り

あ

り

て

伏

東

福

寺

。こ

ら

り

あ

九

条

実

白

石

家

を

新

迦

佛

。毎

年

二

月

十

日

北

興

子

自

争

の

大

法

。通

天

橋

け

は

紅

糸

。毎

年

二

月

初

の

日

稲

岩

社

。人

皇

軍

二

代

。出

伏

。の

入

。あ

り

。あ

り

。毎

年

二

月

初

の

日

。最

後

社

。今

人

親

の

事

を

。隆

塚

。最

古

塚

カ

ス

。毎

年











京都府内入

皇清園白粉通公建立

皇清園 永永永年申古園縁の災うりま

の殿 永永永年申古園縁の災うりま

の殿 永永永年申古園縁の災うりま

△後より川口と流さふまゝひび伏見倉庫構

丁 直ちあかたし構とまうて七丁あかた伏見倉庫

へ出る大坂渡船の場

京三系ち所あへ入

文政十一年丑三月 書林 丸屋善兵衛板

目録先生著 本常流の紀 二冊

日光名勝記 一冊

諸島遊り 七冊

大和めぐり 二冊

大和名の枝折 一冊

京都めぐり 二冊

有馬湯山記 一冊

江戸道中記 一冊

東海名勝記 一冊

伊勢名勝記 一冊

京三系内各名勝 一冊

京三系外各名勝 一冊

京都書林

三系通寺町西へ入所

丸屋善兵衛板



